

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
1. 教育基本法及び学校教育法との関連		
教育基本法第二条【第一号】 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	表現及び鑑賞の全題材や、特設ページにおいて、美しいものや優れたものに触れ、豊かな情操と道徳心を養うことができるよう工夫されている。また、体全体を使った活動を多く取り入れ、健やかな身体を養うことにも配慮されている。 特に「教科書美術館」では、伝統文化を含む多様な造形や美術作品が掲載されている。また、「使ってみよう 材料と用具」では、和紙の製造工程や著作権について示すなど、材料や用具の使い方を含む幅広い知識が掲載されている。	全教材を通して ・各巻の「教科書美術館」 (1・2上p.4-6/1・2下~5・6下p.2-4) ・各巻の「使ってみよう 材料と用具」 (1・2上p.60-67/1・2下~5・6上p.58-65/5・6下p.56-63)
【第二号】 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	一人一人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培うことができるよう、図画工作科の目標を共有する オリエンテーション が設けられている。 つくることを職業としている人の活動を紹介するページが設けられ、造形や美術と 職業との関連 が示されている。 また、題材ページや特設ページにおいて、工芸品や、家庭で児童の作品を飾っている様子、生活の中で出会う造形などが掲載され、造形や美術が 生活と関連 していることが示されている。	・各巻の「オリエンテーション」 (1・2上p.7-9/1・2下~5・6下p.5-7) 【職業との関連】 5・6上p.36-37「つくる」 5・6下p.52-53「つくるって楽しい」 【生活との関連】 ・各巻の「教科書美術館」 (1・2上p.4-6/1・2下~5・6下p.2-4) ・各巻の「ひらめきポケット」 (1・2上p.36-37/1・2下~5・6下p.34-35) ・家庭で作品などを使う事例 (1・2上p.41, 53/1・2下p.43/3・4上p.38, 57/3・4下p.19, 29/5・6上p.25/5・6下p.32, 39) 3・4下p.56-57「ざいりょうを見つけよう」 5・6上p.24-25「使ってみよう 焼き物」 5・6下p.38-39「わたしの感じる和」
【第三号】 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	協力して行うことで、満足感や達成感を得られるような題材が設定されている。また、互いの作品や活動について話し合い、それぞれの 違いやよさを認め合う 様子が多く掲載されている。 主体的に社会に参画する態度を養うために、「図画工作のつながり ひろがり」では、様々な地域の方とともに 協働 し、造形活動する様子が掲載されている。	全教材を通して 3・4上p.56-57「みんなとつながる」 3・4下p.56-57「ざいりょうを見つけよう」 5・6上p.54-55「地いきとつながる」 5・6上p.56-57「形や色に思いをこめて」 5・6下p.54-55「平和をつなげるかたち」
【第四号】 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	身の回りの自然に親しむ造形活動を通して、自然のよさを体感できる活動が掲載されている。 図画工作科を通して、 生命や環境 について考えを深められるような題材や事例が掲載されている。	1・2上p.14-15「すなや つちと なかよし」 1・2下p.8-9「おはなみ スケッチ」 1・2下p.54-55「ともだち 見つけた!」 3・4上p.18-19「わたしの6月の絵」 3・4上p.22-23「みみなしげんの形・色」 3・4上p.48-49「土でかく」 3・4下p.24-25「つなぐくん」 5・6下p.22-23「自然を感じるすてきな場所で」 5・6上p.56-57「形や色に思いをこめて」 5・6下p.46-47「ドリーム・プロジェクト」
【第五号】 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	日本の 伝統文化 に関わる題材や、伝統工芸、美術作品などが掲載され、実際に表現したり鑑賞したりすることで、そのよさを深く理解できるように工夫されている。 また、地域に関わる作品をつくる事例などを掲載し、地域文化や郷土のことを考えながら活動することができるよう工夫されている。 諸外国の児童の作品や作家の作品、建築物などを取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、 国際理解 の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。	・題材において (1・2下p.42-43/3・4下p.52-53/5・6上p.24-25/5・6下p.8-9, 10-11, 26-27, 38-39) ・「教科書美術館」において (3・4下p.2-4, 5・6上p.2-4/5・6下p.2-4) ・「使ってみよう 材料と用具」において (1・2下p.63/3・4下p.65/5・6下p.56-57) ・「図画工作のつながり ひろがり」において (3・4下p.56-57/5・6上p.36-37, 54-55) ・「ひらめきポケット」において (1・2下p.34-35/5・6上p.34-35) ・諸外国の児童の作品 (1・2上p.21/1・2下p.27/3・4上p.25/3・4下p.27/5・6上p.23/5・6下p.25) ・諸外国の作家の作品など (1・2下p.2-4, 35/3・4下p.3-4, 52-53/5・6上p.34/5・6下p.3-4, 18, 34-35/5・6下p.54-55) ・国際理解に関する事例 (1・2下p.57/5・6上p.56-57/5・6下p.54-55)

学校教育法との関連	学校教育法に示された教育の目的及び目標に則し、題材の設定、作品や写真の選択、文章表現などについて十分配慮されている。 特に、学校教育法第三十条第二項に示された「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」について、資質・能力の 三つの柱に基づく学習のめあて を全題材に設定するなど、重視されている。	全教材を通して 全教材を通して	
2. 学習指導要領との関連			
社会に開かれた教育課程との関連	各巻巻頭の オリエンテーション では、図画工作科の目標に基づく 学習のめあて について説明し、何をどのように学ぶのかを児童や、保護者、地域の方と共有できるように工夫されている。また、同ページの 保護者の方へ では、図画工作科を学ぶ意義が伝えられている。 家庭に作品を持ち帰って使ったり、地域の施設などの展示を通して、学校での学びを地域の方に伝えたりする事例や、地域の方と協働して活動する事例が多数掲載され、図画工作科における 社会との連携 が例示されている。	・各巻の「オリエンテーション」 (1・2上p.7-9/1・2下~5・6下p.5-7) ・家庭で作品などを使う事例 (1・2上p.41, 53/1・2下p.43/3・4上p.38, 57/3・4下p.19, 29/5・6上p.25/5・6下p.32, 39) ・「図画工作のつながり ひろがり」において (1・2下p.56-57/3・4上p.56-57/3・4下p.56-57/5・6上p.54-55, 56-57/5・6下p.36-37, 54-55) 3・4下p.42-43「カードでつたえる気持ち」 5・6下p.26-27「すてきな明かり」 5・6下p.40-41「水の流れるように」 5・6下p.46-47「ドリーム・プロジェクト」	
教科の目標との関連	全ての題材において、表現と鑑賞が一体的に学習できるように配慮されている。表現の活動においてもお互いの作品を見合うなど、鑑賞している情景写真が掲載されている。 造形的な見方・考え方を働かせながら学習できるように、オリエンテーションの図画工作をはじめよう では、 造形的な見方・考え方 に基づいて教科の目標を伝えている。また、紙面全体を通して、児童が対象や事象を 造形的な視点 で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことができるように、図版や主文、キャプション、キャラクターのセリフなどが配置されている。 「 生活や社会の中の形や色など と豊かに関わる資質・能力」を育成するために、題材ページに 活動の後で が設定され、学んだことが生活や社会とどう関わるのかを考えられるように工夫されている。また、学んだことを生活や社会で生かしたり活動したりしている事例が多数紹介されている。また、5・6下には 中学校との接続ページ が設けられ、6年間の学びを振り返り、生活や人生にどう生かしていくか考えられるよう工夫されている。 全ての題材に教科の目標に基づく 学習のめあて を設け、 資質・能力の三つの柱の育成 が実現できるよう工夫されている。	全教材を通して 全教材を通して 全教材を通して	
資質・能力の三つの柱との関連	知識及び技能との関連	児童が「自分の感覚や行為を通して」 造形的な視点(知識) について理解できるよう、感覚や行為を大切にしたい題材が扱われている。また「内容の取扱い(3)(共通事項)のアの指導」に示された 知識 に関する指導事項に基づき、低・中・高学年と経験を重ねていけるよう、題材が配置されている。同様に、発達段階に応じたテーマで鑑賞できる「教科書美術館」が設けられている。 題材ページに、 造形的な見方・考え方を働かせることを促すキャラクター を設定し、 造形的な視点(知識) から、児童にヒントを伝えたり、児童の発見を認めたりするなど、 知識の習得・活用 を助ける工夫がされている。 技能の基礎 を支え、児童が自分の思いを基に活動を充実させることができるように、材料や用具の取り扱いについて「使ってみよう 材料と用具」として各巻末8ページでまとめ、写真やイラストで丁寧に説明されている。	全教材を通して 全教材を通して ・各巻の「使ってみよう 材料と用具」 (1・2上p.60-67/1・2下~5・6上p.58-65/5・6下p.56-63)

資質・能力の三つの柱との関連	思考力、判断力、表現力等との関連	どの題材においても児童が「 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく 」ことができるように、多様な発想のきっかけをもつ題材が配列されている。	全教材を通して
		児童が「 創造的に発想や構想 」をすることができるように、その手掛かりとなる多様な情景写真や参考作品が掲載されている。また、より発想や構想を広げ深めることができるように、 作品のコメントや製作過程のワークシート なども掲載されている。	全教材を通して
		児童が作品や友人の活動などに対して、 よさや美しさを感じ取ったり考えたり できるように、題材ページに鑑賞活動を促すような情景写真が掲載されている。	全教材を通して
		「 作品などに対する自分の見方や感じ方を深め 」られるように、鑑賞する活動に関しては、身近なものの形や、美術作品などに関心や親しみを持ち、そのよさや美しさなどを感じ取ったり、味わったりする題材が掲載されている。	鑑賞する活動において
学びに向かう力、人間性等との関連		学習指導要領の趣旨を踏まえ、 学びに向かう力、人間性等のうち主体的に学習に取り組む態度 については、 学習のめあて において分かりやすい言葉で示され、児童が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。	全教材を通して
		学びに向かう力、人間性等 のうち、感性や思いやりなど観点別評価になじまない部分については、 活動の後 で活動を通して感じたり考えたりしてほしいこととして例示し、児童一人一人の気付きを大切に、学びを人生や社会に生かそうとすることができるよう工夫されている。	全教材を通して
		中学校との接続ページ では、学びを中学校での学習に生かすことができるよう、6年間の学びを振り返ることができるよう工夫されている。	5・6下p.64-65「中学生になるあなたへ」
主体的・対話的で深い学びとの関連	主体的な学びとの関連	オリエンテーション において、図画工作科では何をどのように学ぶのかについてを、教科書の使い方とともに示し、児童が学ぶことに興味・関心を持ち、 主体的に学習に取り組む ことができるよう工夫されている。	・各巻の「オリエンテーション」 (1・2上p.7-9/1・2下～5・6下p.5-7)
		題材は、多様な児童が興味・関心をもつことができるように、様々な発想のきっかけから活動に取り組めるものになっている。	全教材を通して
		実際の授業を撮影した写真が用いられ、児童が親近感を持ち、写真の豊かな表情に触発されながら、活動に興味・関心をもつことができるよう工夫されている。また、題材名やリード文、題材名のデザイン上の工夫、図版のサイズに大小の動きをもたせた構成などによって、児童がより興味・関心をもって活動ができるよう紙面作成されている。	全教材を通して
		学習のめあて を各題材の入口部分に示すことで、児童が 見通し をもって活動でき、また活動の終わりでも 振り返 ることができるように工夫されている。	全教材を通して
対話的な学びとの関連		児童が考えを伝えあったり、友人と相談したりしながら 協働 して造形活動を行う様子が紹介され、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるように工夫されている。	全教材を通して
		「図画工作のつながり ひろがり」では、児童と保護者の方、地域の方、高齢者施設の利用者などが対話する様子や、児童が地域の方、地域の小学生、中学生、大学生、施設職員の方などと 協働 している様子が掲載され、対話をしながら考えを広げていくことを児童に促す工夫がされている。	・「図画工作のつながり ひろがり」において (1・2下p.56-57/3・4上p.56-57/5・6上p.54-55、56-57/5・6下p.54-55)
		「図画工作のつながり ひろがり」では、古くからその土地で使われてきた材料や用具について紹介したり、伝統的な文化に携わる人の話を掲載したり、アーティストの考え方を掲載したりするなど、 先哲の考え方を手掛かりに考えることを促す 工夫がされている。	・「図画工作のつながり ひろがり」において (3・4下p.56-57/5・6上p.36-37/5・6下p.52-53)
深い学びとの関連		児童が 造形的な見方・考え方 を働かせて、自ら表したいことやつくりたいことを見付けられるように、題材の設定が十分に配慮されている。	全教材を通して
		オリエンテーション の図画工作をはじめようでは、 造形的な見方・考え方 が分かりやすい言葉で示されている。	・各巻の「オリエンテーション」 (1・2上p.7-9/1・2下～5・6下p.5-7)
		「ひらめきポケット」では、児童が手を動かしながら 造形的な見方・考え方 を働かせることを促し、児童が発想のヒントとして使うことができるように工夫されている。	・各巻の「ひらめきポケット」 (1・2上p.36-37/1・2下～5・6下p.34-35)
		題材ページに設定されたキャラクターは、児童が 造形的な見方・考え方 を働かせることを促したり、児童の発見を認めて学びを促したりするなど、児童の 深い学び をサポートすることができるように工夫されている。	全教材を通して

他教科等との関連	他教科での学習を生かしたり、関連付けたりした題材や事例を掲載し、 教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメント ができるよう配慮されている。	【国語科】 1・2上p.34-35「おはなしから うまれたよ」 1・2下p.40-41「ことばのかたち」 3・4上p.42-43「ことばから形・色」 3・4下p.44-45「言葉から形・色」 5・6上p.46-47「言葉から思いを広げて」 5・6下p.42-43「言葉から想像を広げて」 【社会科】 3・4上p.46-47「ねん土マイタウン」 3・4下p.48-49「ようこそ！ ゆめのまちへ」 3・4下p.56-57「ざいりょうを見つけよう」 5・6上p.24-25「使って楽しい焼き物」 5・6下p.10-11「墨と水から広がる世界」 5・6下p.38-39「わたしの感じる和」 5・6下p.46-47「ドリーム・プロジェクト」 【算数科】 1・2上p.38-39「いっぱい つかって なに しよう」 1・2上p.44-45「はこで つくったよ」 3・4下p.42-43「カードでつたえる気持ち」 5・6上p.38-39「ミラクル！ ミラーステージ」 5・6下p.12-13「ここから見ると」 5・6下p.32-33「1まいの板から」 【理科】 3・4上p.2-4「しぜんの色」 3・4上p.20-21「ふき上がる風のにせて」 3・4上p.22-23「みみなしぜんの色」 3・4上p.44-45「ゴムゴムパワー」 3・4上p.48-49「土でかく」 3・4上p.50-51「マグネットマジック」 3・4上p.56「トイ・コンテスト・グランプリ」 3・4下p.2-4「しぜんの形」 3・4下p.38-39「光とかけから生まれる形」 3・4下p.50-51「ゴー！ ゴー！ ドリームカー」 【音楽科】 1・2下p.30-31「音づくり フレンズ」 5・6下p.20-21「音のする絵」 【家庭科】 5・6上p.24-25「使って楽しい焼き物」 ※本書p.28も参照ください。
	低学年においては、 生活科 と関連する題材・事例が多く掲載されている。	【生活科】 1・2上p.12-13、14-15、26-27、32-33、50-51/1・2下p.8-9、42-43、54-55、56
	総合的な学習の時間 や 特別活動 と図画工作科の活動を関連させた事例が多く掲載されている。	【総合的な学習の時間】 3・4下p.57「石を使った絵の具づくり」 5・6上p.55「佐伯山海の恵み まんさい弁当」 【特別活動】 1・2下p.57「うんどうかいのはたをかざったよ」 1・2下p.57「がいこくから あそびに きた ともだちと いっしょに つくったよ」 3・4上p.56「校内でのてんじ」 5・6上p.54「未来のまちをつくらう」
道徳教育との関連	紙面全体を通して、安全への配慮、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす、友人と理解し合う、父母や祖父母、先生や学校の人々を敬愛する、美しいものに感動する心をもつ、郷土の伝統文化を大切に愛する、わが国の伝統文化を大切に、などの項目と強く関連している。また、全ての題材は、つくりだす喜びを味わうことができるよう配慮され、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものになっている。 特に道徳と深く関連するページは、 道徳マーク で示されている。	全教材を通して ※本書p.55を参照ください。
幼児期の教育との接続への配慮	幼児期との接続ページ が設定され、幼児期の経験や学びを振り返り、身に付けたことを小学校でも活用することができるよう工夫されている。また、幼稚園・認定子ども園・保育所での表現活動を参考に、1年生が入学後に興味を抱きやすく、幼児期の経験を活用しやすい題材が、適切な時期に配列されている。	1・2上p.2-3「幼児期との接続ページ」 1・2上p.4-6、10-11、12-13、14-15、18-19

中学校教育との接続への配慮	中学校との接続ページが設定され、図画工作科での経験を振り返りながら、何を学習してきたのか考え、中学校への学びのつながりを意識することができるよう工夫されている。また、中学校の美術科や技術科との関連に配慮したページが設けられている。	5・6下p.64-65「中学校との接続ページ」 5・6下p.18-19, 32-33, 36-37, 38-39, 62
(共通事項)の取り扱いについて	教科書全体を通して取り扱われている。(1)アの形や色などに関する事項については、児童が感覚や行為を通して「形や色などを捉える」ことができるように、全身の感覚を使って材料や用具に触れる題材が設定され、形や色に主体的に関わることを促すような児童の情景写真が多く掲載されている。また(2)イのイメージに関する事項については、児童が題材に出合いイメージを膨らませることができるように、各題材のリード文は形や色からイメージを喚起するような文言になっている。	全教材を通して
	各題材に造形的な見方・考え方に関わってヒントを伝えるキャラクターを設定し、(共通事項)について指導しやすいうように配慮されている。	全教材を通して
「版に表す経験や土を焼成して表す経験」について	各巻に、児童の発達の段階に応じて、版の特性を生かして表す題材が設定されている。また、版の特徴や表し方については「使ってみよう 材料と用具」に示し、児童がその特性を十分に理解しながら活動を行うことができるように配慮されている。	【版に表す経験】 1・2上p.58-59/1・2下p.52-53/3・4上p.54-55/3・4下p.54-55/5・6上p.50-51/5・6下p.50-51 ・「使ってみよう 材料と用具」において 1・2上p.63/1・2下p.64-65/3・4下p.58-59/5・6上p.59
	各巻の粘土を扱う題材の中に、焼成して表す展開や作品が紹介されている。また、「使ってみよう 材料と用具」において焼成の方法やその効果などを示し、児童が焼成の特性を十分に理解しながら活動を行うことができるように配慮されている。	【焼成して表す経験】 1・2上p.54-55, 1・2下p.38-39, 3・4上p.16-17, 3・4下p.14-15, 5・6上p.24-25, 48-49, 5・6下p.40-41 ・「使ってみよう 材料と用具」において 1・2上p.66/1・2下p.63/3・4上p.64/5・6上p.64-65
言語活動の充実への配慮	発想や構想、鑑賞など様々な場面で児童がコミュニケーションを取りながら造形活動を行う様子が紹介されている。	全教材を通して
	作品をつくった児童のコメントや、児童のワークシートが掲載され、形や色、言葉で思いを伝え合う活動が促されている。	全教材を通して
	特に鑑賞の題材においては、「対話をしている様子を吹き出しで示す」「感じたことを文章にする」「感じたことをふせんに書いていく」「作品について説明する」など様々な言語活動の様子が掲載されている。	鑑賞する活動において
情報機器の利用について	タブレットコンピュータやカメラを使って、表現や鑑賞している様子が掲載され、情報機器の活用例が示されている。また、「使ってみよう 材料と用具」では、カメラの使い方やインターネットの利用について説明されている。	【情報機器の利用】 1・2下p.28-29/3・4上p.22-23, 30-31/3・4下p.38-39/5・6上p.16-17, 18-19, 28-29/5・6下p.12-13, 28-29) ・「使ってみよう 材料と用具」において 3・4上p.65/5・6下p.63
情報活用能力の育成について	「使ってみよう 材料と用具」において、情報の受信・発信における情報モラルについて説明するコーナーが設けられている。	5・6下p.63「インターネットを活用する」
	プログラミング的思考を育むため、仕組みの動きを基に思い付いたものをつくる活動や、版に表す活動などにおいて、表したいものを実現するために手順や組み合わせを論理的に考える場面が設定されている。プログラミング言語等を使用した活動については教師用指導書で紹介する体制が整えられている。	1・2下p.48-49/3・4上p.44-45/3・4下p.50-51/5・6上p.50-51/5・6下p.16-17
創造性を大切にすることを養うことについて	「使ってみよう 材料と用具」において、お互いの表現を尊重することの大切さを伝えるコーナーが設けられ、作品の著作権などの知的財産権について説明されている。	5・6下p.63「インターネットを活用する」
教科書デジタルコンテンツについて	工作題材において発想を広げるために「仕組みが動く様子」を動画で示すなど、児童の活動を支援するためのデジタルコンテンツが制作され、該当題材についてはデジタルマークで示されている。また、教科書以外にも、学習者用デジタル教科書や、教師用指導書同梱の指導者用デジタル教材を別途提供する体制が整えられている。	1・2上p.56-57「にょきにょき とびだせ」 1・2下p.48-49「バタバタ ストロー」 3・4上p.20-21「ふき上がる風にのせて」 3・4上p.44-45「ゴムゴムパワー」 3・4上p.50-51「マグネットマジック」 3・4下p.42-43「カードでつたえる気持ち」 5・6上p.18-19「形が動く 絵が動く」 5・6下p.16-17「くるくるクランク」
環境教育への配慮	題材ページ内のかたづけにおいて、材料の有効活用について触れられている。また自然材や、再利用できる材料を使用する題材を設定し、環境問題への関心を高める工夫がされている。	全教材を通して
	環境や安全について考えながら未来の学校や町をつくる題材が掲載され、環境問題への関心を高められるよう配慮されている。	5・6下p.46-47「ドリーム・プロジェクト」

キャリア教育との関連	学びを振り返り、人生にどう生かすか考えることができる中学校との接続ページや、未来の自分を想像して表現する題材、アーティストのインタビューなどが設定され、学びと将来とのつながりについて考えられるよう配慮されている。	5・6上p.36-37「つくる」 5・6下p.48-49「未来のわたし」 5・6下p.52-53「つくるって楽しい」 5・6下p.64-65「中学校との接続ページ」
人権尊重の視点	家族や高齢者、地域の方、障がいのある人たちなどに対して、日頃から優しい気持ちで向き合い、思いやりをもてるように、題材を通して、心豊かで、慈愛のある人間性が育まれるように配慮されている。	1・2下p.42-43「わくわく おはなしゲーム」 3・4上p.56-57「みんなとつながる」 3・4下p.42-43「カードでつたえる気持ち」 5・6上p.54-55「地いきとつながる」 5・6上p.56-57「形や色に思いをこめて」 5・6下p.40-41「水の流れるように」
	図画工作科の活動を通して、異学年での交流や身近な地域、社会とつながる活動を紹介することで、人との触れ合いや共生を通して造形表現を深めていくことができるよう工夫されている。	・「図画工作のつながり ひろがり」において (1・2下p.56-57/3・4上p.56-57/3・4下p.56-57/5・6上p.54-55, 56-57/5・6下p.54-55) 3・4下p.42-43「カードでつたえる気持ち」 5・6上p.52-53「伝えたい思い」 5・6下p.26-27「すてきな明かり」 5・6下p.46-47「ドリーム・プロジェクト」
	写真やイラストにおいて、外国籍等児童など多様な児童がともに学び合う姿や、幼児、高齢者、障がいのある人など、多様な人々と関わる姿が掲載されている。作品の掲載においては、作家作品、伝統工芸、アール・ブリュットの作品などが取り上げられ、教科書全体を通して多様性を尊重しながら学ぶことができるよう工夫されている。	全教材を通して
伝統文化・地域文化に関して	発達の段階に応じて、伝統的な遊び、伝統玩具、伝統工芸、伝統文化などについて、題材ページや特設ページで取り上げられている。また、地域で古くから手に入る材料を使った工芸品や、地域の特産品を使った弁当のパッケージをつくる事例、地域のおみこしをつくる事例など、地域文化について考えながら活動している事例が紹介されている。	・題材において (1・2下p.42-43/3・4下p.52-53/5・6上p.24-25/5・6下p.8-9, 10-11, 26-27, 38-39) ・「教科書美術館」において (3・4下p.2-4, 5・6上p.2-4/5・6下p.2-4) ・「使ってみよう 材料と用具」において (1・2下p.63/3・4下p.65/5・6下p.56-57) ・「図画工作のつながり ひろがり」において (3・4下p.56-57/5・6上p.36-37, 54-55) ・「ひらめきポケット」において (1・2下p.34-35/5・6上p.34-35)
防災・安全に関して	題材ページ内のきをつけようにおいて、用具の安全な使い方や、活動場所の安全を確認することなどを示し、安全に配慮する態度を養うことができるよう工夫されている。	全教材を通して
	防災研究の専門家である河田恵昭先生(関西大学 特別任命教授)、片田敏孝先生(東京大学大学院情報学環 特任教授)による全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して
	防災・安全について、防災看板のピクトグラムや、震災からの復興を願った展示の様子などが掲載され、防災への考えを深められるよう配慮されている。	5・6上p.56-57「形や色に思いをこめて」
特別支援教育への配慮	色覚特性の有無に関わらず、全ての児童が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色など、カラーユニバーサルデザインに配慮して編集されている。題材の分野を示すアイコンは、誰もが見やすく見分けやすい配色によるデザインで作成されている。題材名は見やすく、かつ楽しく取り組めるようデザインされている。学年に合わせ、文字の大きさが調整されている。	全教材を通して
	特別支援教育の専門家である大内進先生(国立特別支援教育総合研究所 特任研究員)による、全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して
	多様な表現を認められるように、参考作品における支持体の大きさ、形、素材は様々なものが取り上げられている。また、障がいの有無に関わらず児童が題材に主体的に取り組めるように、様々な発想のきっかけをもつ題材が設定されている。また、一つの題材の中でいくつかの実践パターンが示され、児童の実態に応じて材料の種類や数を絞るなど実践方法を変えられるよう配慮されている。また、教科書とは別に、18, 22, 26ポイントと文字の大きさを変えた、三種類の拡大教科書を制作したり、文字の拡大や音声の読み上げなど、学習支援のための機能を備えたデジタル教科書を制作したりする体制が整えられている。	全教材を通して
	手で触って作品を鑑賞する展覧会の事例では、視覚障がい特別支援学校の児童の作品に触って鑑賞する様子が掲載され、触覚で鑑賞する方法が提案されている。	5・6下p.40-41「水の流れるように」

国際理解教育への配慮	諸外国の児童の作品や作家の作品、建築物などを取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、 国際理解 の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。	・諸外国の児童の作品 (1・2上p.21/1・2下p.27/3・4上p.25/3・4下p.27/5・6上p.23/5・6下p.25) ・諸外国の作家の作品など (1・2下p.2-4, 35/3・4下p.3-4, 52-53/5・6上p.34/5・6下p.3-4, 18, 34-35/5・6下p.54-55) ・国際理解に関する事例 (1・2下p.57/5・6上p.56-57/5・6下p.54-55)
持続可能な社会に関して(ESD)	題材ページ内の かたづけ において、材料の有効活用について触れ、環境問題への関心を高める工夫がされている。	全教材を通して
	児童が、 持続可能な社会の創り手 として、現代的な諸課題について図画工作科との関わりを通して考えを深められるよう、環境、地域文化・伝統文化、多文化共生、国際理解、平和・人権、防災・安全に関わる題材や事例が取り上げられている。	※本書p.60-62の各項目や、本書p.32をご参考ください。
	持続可能な開発目標 (SDGs)について、いろいろな国の人が見て分かるピクトグラムというデザインの観点から取り上げられ、多文化共生について考えながら学べるよう配慮されている。	5・6上p.56-57「形や色に思いをこめて」

3. 構成・配列

題材の系統性への配慮	低・中・高学年の児童の発達について、授業の取材や全国各地の実践報告を基に研究し、発達の段階に応じて学びを深められるよう、系統性に配慮して配列されている。 題材の分類は、「造形遊びをする」「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」「鑑賞する」活動の五つの分野で構成され、それぞれの分野の中で、児童の発達に十分配慮した材料や用具が取り扱われている。	全教材を通して
内容の配列や学年の順序性の工夫	各巻とも、1年の流れに沿って、行事や季節に応じて題材を選択できるよう配列されている。	全教材を通して
	材料や用具の取り扱いについて、例えばはさみについては1・2上で基本的な使い方、3・4上でははさみの応用的な使い方を紹介するなど、学年の順序性が十分に留意されている。	全教材を通して
	学習指導要領において「内容」を2学年まとめて示していることを受け、低・中・高学年でテーマが設定されている。低学年では「たのしいな おもしろいな」として、つくりだす喜びを味わう姿が示されている。中学年では「ためしたよ 見つけたよ」として、積極的に活動していく姿と同時に、友人や先生をはじめとする周囲の大人と喜びを共有する姿が示されている。高学年では「見つめて 広げて」として、対象を見つめる姿、自らの中で生まれる造形的主題を深めていく姿が示されている。	全教材を通して
地域性への配慮	学校や地域の実態に合わせて活動できるように、同一題材内で、屋外での活動と屋内での活動の両方が紹介されている。また、地域の実態によって入手可能な材料が違うことに配慮し、様々な材料での実践が同一題材内で紹介されている。	全教材を通して
	地域や学校の実態、児童の状況に合わせて題材を選択できるよう、豊富な題材が掲載されている。	全教材を通して
	図画工作科の学習が、身近な話題と結び付いていることを意識できるよう、 東京オリンピック・パラリンピック のエンブレムが取り上げられている。	3・4下p.34-35「組み合わせる」
	全都道府県の様々な造形活動や美術館の取り組み、伝統工芸、美術作品などが掲載され、児童が自分たちの住む地域や全国の地域に関心をもったり、活動の参考にしたりできるよう配慮されている。	※本書p.46を参照ください。
カラーユニバーサルデザインへの配慮	色覚特性の有無に関わらず、全ての児童が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色など、 カラーユニバーサルデザイン に配慮して編集されている。題材の分野を示すアイコンは、誰もが見やすく見分けやすい配色によるデザインで作成されている。題材名は見やすく、かつ楽しく取り組めるようデザインされている。学年に合わせ、文字の大きさが調整されている。	全教材を通して
	特別支援教育の専門家である 大内進先生(国立特別支援教育総合研究所 特任研究員) による、全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して

4. 正確性及び表記・表現

文章表現は適切であるか	題材名は、発達の段階に対応しつつ、児童の興味や関心を引き出し、イメージを広げることができるよう工夫されている。また周囲に装飾を施し、活動に対する意欲をさらに高める工夫がされている。	全教材を通して
	導入文(リード文)は、児童の興味や関心を引き出すとともに、導入において児童がイメージを広げやすい言葉を選び、工夫されている。	全教材を通して
図版・写真などは学習内容と関連付けられているか	資質・能力の三つの柱 に基づく 学習のめあて に対応している情景写真が示されている。また、造形遊びにおける周囲の様子が読み取れるような写真、活動途中や終末での相互鑑賞・プレゼンテーションの様子も掲載されている。作品図版においても、児童の発想や構想、工夫が読み取りやすいよう、一部を拡大して掲載するなど、活動の際の参考になるよう工夫されている。	全教材を通して
レイアウトは斬新であるか	作品が大きく掲載されていることはもちろん、活動の情景が多く掲載され、活動の入口から出口まで、全ての場面が等しく学びであることを示すようなレイアウトになっている。また、大小のメリハリをつけることで紙面に動きをもたせ、児童が興味・関心をもつことのできる構成になるよう工夫されている。	全教材を通して
つくる過程や図解は明確であるか	仕組みのつくり方などは図示することで分かりやすく、児童が主体的に活動できるように示されている。また、材料や用具の取り扱いについては巻末にまとめられ、いつでも参照できるよう工夫されている。	・各巻の「使ってみよう 材料と用具」 (1・2上p.60-67/1・2下~5・6上p.58-65/5・6下p.56-63)

5. 造本

大きさ・判型への配慮	A4判で、作品や写真を見やすく、インパクトをもたせて掲載し、児童の興味・関心を引き出す工夫がされている。	全巻を通して
印刷の鮮明さ	児童の作品、美術作品のニュアンスや材質感などの忠実な再現が図られている。用紙は図画工作科の教科書として、再生紙の中で最適の良質コート紙が使用されている。	全巻を通して
製本の堅牢さ	製本は約30カ所という細かい目を付けたミシン糸の中綴じで、見返しを付けているため開き易く 使いやすさに配慮 され、かつ長期の使用に耐える堅牢で丈夫な造本にされている。	全巻を通して
装丁の工夫	表紙は美しい光沢と耐水性のあるコーティングが施され、丈夫で水濡れに対しても耐久性がある。表紙に掲載されている作品は、細部が見えるように拡大され、裏表紙には作品の全図と、児童の言葉を基にした作品コメントが掲載されている。また裏表紙には、各学年の知識に基づいたテーマでかいたり見たりしながら活動できる 形や色を楽しもう というコーナーが設けられている。	各巻表紙・裏表紙
安全・健康への配慮	植物性インクが使用されているため、従来の印刷に比べ人体への影響が少なく、また化学物質に過敏な児童のために表紙の表面加工が工夫され、化学物質の残存量を少なくするための努力が行われている。	全巻を通して
環境への配慮	資源保護に配慮され、表紙・本文ともに再生紙が使用されている。印刷においては、植物性インクが使用されている。	全巻を通して
軽量化への取り組み	児童の、重さへの負担をできるだけ軽減するため、 軽量化した再生紙 の中で最適の良質コート紙が使用されている。	全巻を通して